

# 教育研究集会報告

平成30年10月5日(金)

諏訪教育会健康教育委員会

9月1日(土) 教育研究集会がおこなわれました。第18分科会「健康教育」には34名の先生方とPTAの皆さんが参加され有意義な時間となりました。

## 分科会

### アイスブレーキング

問題提示 みんなで虫歯予防 フッ化物洗口ってなあに？

中洲小学校 花岡 真美先生



分科会では、今年から諏訪市で導入された、「フッ化物洗口」についてです。フッ化物洗口が始まった経緯や、具体的にどのように準備を行っているかを教えて頂きました。

半年分の薬剤が一気に届き、溶解などの準備も養護教諭が行うということで、慌てないように、余裕のあるときに1回分ごとにジップロックに分けているなどという工夫も教えて頂きました。

ご参加くださったPTAの方からは、「Wチェックが大切だと思うが、養護教諭一人で準備して、間違えて2倍入れてしまったら健康に影響はあるのか」という質問が出ました。それについては、PTAとしていらしていた、歯科医師の笠原健一先生から、『一回の洗口で使用するフッ化物の量はお茶1~2杯程度で、2倍になったものを飲み込んでもすぐに健康被害が出る量ではない』というご回答を頂きました。また、「歯みがき粉にもフッ化物が入っている場合があるが、効果は違うのか」という質問に対しては、『むし歯の予防効果が大きい順は、論文により

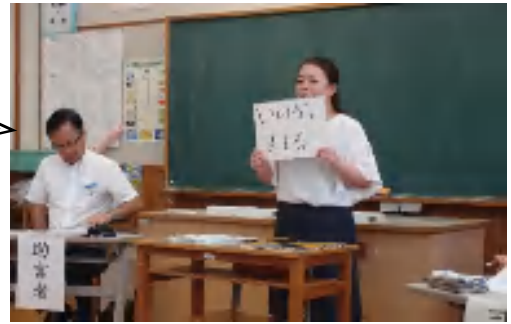


差はあるが、□フッ化物洗口>□フッ化物塗布>□歯磨き粉(歯みがき後に、うがいをして吐き出してしまうため効果は少な目)だと教えて頂きました。さらに、フッ化物洗口は主に初期むし歯を治したり、歯が酸に溶けにくいように強くする効果、フッ化物塗布は主にフッ化カルシウムを作ってフッ化物を貯蔵する効果があり、役割が異なるため、どちらも同時に行えば効果的であるが、魔法の薬ではないので、基本は歯みがきや定期健診を引き続き指導して頂きたい』とのことでした。

分科会 レポート

「4月の保健指導を通してみる児童の意識変容  
～保健室のルールと保健の先生からのお願い～」

泉野小学校 藤澤 優先生



藤澤先生が4月にいつも行っているという、保健指導「保健室ってどんなところ？」の実践を発表していただきました。スケッチブックを使った指導は、紙芝居のようで子ども達の注意をひく教材だと感じました。高学年は知っている内容もあるが、毎年全学年同じ内容で確認するようにすることで、保健指導後、傷を洗ってきたり、きちんと担任に言ったりしてから来室する児童が増えたということでした。そして、藤澤先生が伝えたいことの根底にあるのは、「いのちをまもってほしい」ということです。子どもが将来自分で健康を守っていけるように教えたいという先生の思いが伝わってきました。畠山校長先生からは、子ども達を健康の主体にすることが保健指導のポイントだというご指導を頂きました。

分科会 レポート

「性に関する指導」を体重測定時の保健指導で  
どう指導するか？

川岸小学校 小河千代子先生



小河先生からは、先生が、学級の性教育へつながるきっかけ作りとして行っている実践を紹介して頂きました。1年生だったら、「絵本「わたしのはなし」性被害に遭わないために」など、1年から6年までのカリキュラムを考えて指導されているそうです。性教育に使える絵本もたくさん紹介して頂き、すぐにも買いたい、という方もいました。（絵本：ぼくのはなし、かみさまからのおくりもの、おおきくなるってどんなこと？、いのちのまつり）  
今回紹介して頂いた3年生の指導では、「自分らしさ」「個性」について考えることのできる内容で、終わった後に「大切な自分、大切な命」についてクラスで学習していくきっかけとなるようになっています。単発で終わるのではなく、あとの学習も見据えた保健指導で、とても勉強になりました。

レポート発表してくださった先生方はじめ、  
参加していただいた先生方、PTAの皆様、  
本当にありがとうございました。